

漢法苞徳塾資料	No. 080
区分	診断・脈診（難経講義 4.）
タイトル	潔古・馬の脈論の註より
著者	八木素萌
作成日	1998.08.10

四難の前半の記述は、肺と心の脈は陽部に診るものであることを意味していよう、故に寸部で浮に撮って診ることにするべきであり、肝と腎の脈は陰部（つまり尺部で沈に按じて）で診る可きものであろう。この点は、十八難の前段の記述の解釈問題とからむ問題であり、また中段の記述にも関連する。また『脈経』の解釈による六部への配当の説と歴代の脈論家の臓腑配当に実に多種類の解釈とが在るので、『脈経』の説（今日我が国で一般的に採用されている臓腑配当の説）が『難経』十八難前段の解釈として正しいかどうか大いに疑問である（別図を参照いただきたい）。

脈状を説明的に記述している「難」としては、三・四・六・十三・十五・十七・十八下段・二十・四十八・四十九・五十八・五十九難等の諸難である。これらから脈状を表にすると下図の通りである。

五臓脈状

肝	沈・牢而長(4)。十二菽・与筋平者(5)。急(10)。弦而急(13)。弦(15)。 気来厭々聶々・如循榆葉（平）、益実而滑・如循長竿（病）、急而勁益強・如新張弓弦（死）(15)。 弦(49)。
心	浮・浮而大散(4)。六菽・与血脉相得者(5)。大(10)。浮大而散(13)。鉤(15)。 累累如環如循琅玕(平)、益数・如鷄拳足(病)、前曲后居如操帶鉤(死)(15)。浮大(49)。
脾	中・呼吸間脾受穀味(4)。九菽・与肌肉相得者(5)。緩(10)。中緩而大(13)。中州平和不可得見(15)。 衰乃見耳如雀之啄如水之下漏(15)。緩(49)。
肺	浮・浮而短濇(4)。三菽・与皮毛相得者(5)。濇(10)。浮濇而短(13)。毛(15)。 藹々如車蓋按之益大(平)、不上不下如循鷄羽(病)、按之蕭索如風吹毛(死)(15)。濇(49)。
腎	沈・按之濡拳指来実(4)。按至骨・拳指来実(5)。沈(10)。沈濡而滑(13)。石(15)。 脉来上大下兌濡滑如雀之啄(平)、啄々連属中微曲（病）、来如解索去如彈石(死)(15)。沈濡(49)。

（１９９７年７月～追加）秩書とされていた『葉註難経』（元・張元素－潔古～）〈七十四難まで〉が存在していた（中国中医研究院図書館所蔵の古写本）事が判明し、オリエント出版社が「難経稀書集成」の中に影印した。また同じように秩書とされていた明・馬玄台の『難経正義』も中国中医研究院図書館所蔵の本〈全九巻の内前半の五巻のみがあった・四十五難までである〉も影印出版された。ともに極めて優れた注釈を行なっているので、紹介して置きたい。

一陰一陽	a	謂脈来沈而滑・見於左手尺部・是腎与膀胱之正脈也・故名之曰順。若見於左手寸口・是心与小腸之脈・被水来尅火矣・非逆而何。
	b	謂脈来沈滑也・腎脈也・其時寒・其性堅・腎名与病十一月十二月之氣也・左。
一陰二陽	a	脈来沈・兼滑而長・此脈見於陰部・是為陽乘陰矣。
	b	脈来沈滑而長也・肝脈也・其時風・其性動・正月二月之氣也・左関。
一陰三陽	a	脈来浮滑而長時一沈也・尺部見之則為陽中伏陰矣一似二十難陽脈乘陰而陽中伏陰之脈一
	b	脈来浮滑而長時一沈也・心脈也・其時熱・其性軟・三月四月之氣也・左寸。
一陽一陰	a	謂脈来浮而濇・見於右手寸口・是肺与大腸之正脈也・故名曰順・若見於左手関中・是肝胆之脈・被金来乘木矣・非逆而何。
	b	謂脈来浮而濇・三焦脈也・其時暑・其性柔・五月六月之氣也・右尺。
一陽二陰	a	脈来長而沈濇也・此脈見於陽部・是血氣俱虚・陰乘陽矣。
	b	謂脈来長而沈濇也・脾脈也・其時湿・其性緩・七月八月之氣也・右関。
一陽三陰	a	脈来沈濇而短時一浮也・寸部見之・則為陰中伏陽矣一似二十難陰脈 乘陽而陰中伏陽之脈一
	b	謂脈来沈濇而短時一浮也・肺脈也・其時燥・其性斂・九月十月之氣也・右寸。

a. 馬玄台『難經正義』の註

b. 張元素（潔古）『藥註難經』の註

その他

- a. は上文に続いて「各以十二經所在・審四時之候・察六脈之變・以名其病之為逆為順而決其死生也」と述べて更に〔附考証〕を『傷寒論』の縦横順逆の説明を紹介している

縦…水行乘火・金行乘木

横…火行乘水・木行乘金

逆…水行乘金・火行乘木

順…金行乘水・木行乘火

である。

- b. 本文の「各以其經所在名病逆順也」に続いて「仮令每部有明病逆順脈不過時不過性不甚謂之順仮令脈過時過性甚謂之逆又仮令肝脈不見他証邪微弦者順弦甚及微者逆餘皆倣此治法呼出心与肺当若（？苦）当涼吸入腎与肝当辛当温經云辛甘発散為陽酸苦湧泄為陰」と記述する。

六部配当諸家の説

左手			右手	
少陰心・太陽小腸	a/b	寸	太陰肺・陽明大腸	a/b
心・膻中	d/e/f/g		肺・胸中	d/e/f/g
心・心包	c		肺・膻中	c
厥陰肝・少陽胆	a/b/c	関	太陰脾・陽明胃	a/b/c/d/e/f/g
肝・膈	e			
肝・胆・膈	f			
肝・胆	d/g	尺	厥陰心包・少陽三焦	
少陰腎・太陽膀胱	a		腎・腹	e
腎・腹	e		腎・大腸	b/f
腎・膀胱・大腸	c		腎・三焦・命門・小腸	c
腎・膀胱・小腸	d/f		腎・三焦	a
腎・小腸	b		三焦・命門・大腸	d
腎・小腸・膀胱・前陰の疾病	g		腎・大腸・後陰の疾病	g

注：最上段は難経十八難の配当（『脈経』の解釈であり通行の解釈でもある）

a	王叔和『脈経』
b	李時珍『瀕湖脈学』
c	張介賓（景岳）『景岳全書』
d	黃宮綉『脈理求真』
e	内経…滑伯仁『診家枢要』の解説によれば、“尺の両傍”を“尺の内外”と解し “附上”を“関”と解し“上附上”を“寸”と解して『素問』脈要精微論第 17 注解する。 尚『診家枢要』の配当は十八難に同じ。
f	吳謙『医宗金鑑』
g	徐春圃『古今医統』